



午前中の2時間、150組300名が参加した「レーサーズ・セッション」。3選手がカジュアルな服装で近況を語った。右から室屋選手、中上選手、佐藤選手



当然ながら3選手の腕にはブライトリングがハマっていた。付けるのが右腕、左腕かはそれぞれのこだわりがあるとのこと

午後からのドリーム・セッションには100組200名(親子)が参加し、3選手はレーシングスーツで登場! 映し出されているのは4歳の中上選手



スイスの機械式クロノグラフメーカーとして知られるブライトリングを取り扱うブライトリック・ジャパンが2018年の10月末、MotoGPに参戦中の中上貴晶選手、インデイ500で優勝経験のある佐藤琢磨選手、2017年レッドブル・エアレース・ワールドチャンピオンの室屋義秀選手とともに、それぞれの分野のトップで戦う3人がチームを組み、共通のミッションに挑戦する、というブライトリックのスクワッド・コンセプトのもと誕生させた日本独自のチーム「JAPAN RACERS SQUAD」(ジャパン・レーサーズ・スクワッド)。その初となるイベントが都内のスタジオで、約500人を集めて開催された。3人とも世界最高峰の舞台で活躍しつつ、子どもたちに夢を伝える啓蒙活動も積極的に行なっており、彼らの「一緒にアクションしよう!」という思いが、ついに実現したのである。

世界のトップレーサーが子どもたちに「夢」の大切さを伝える

午前中は、3人が今シーズンを振り返り、戦いの舞台裏や世界へ挑む心境を熱く語った。レーサーズ・セッションが展開され、午後には子どもたちに向けた、夢の大切さ、夢の実現方法をテーマにした「ドリーム・セッション」が用意されていた。ドリーム・セッションでは、子どもたちに語りかけるだけでなく、質問に答えたり撮影会も行なわれ、3人ともレース中とは違う表情を見せてくれた。世界のトップシーンで活躍する選手と直接触れられるのは子どもたちにとってすばらしい経験となるはずなので、これからこういったイベントが引き続き開催されることを望みたい。

ケガによって日本GPで満足な走りを見ることができなかった中上選手だったけれど、「手術後の経過は順長です。今、右腕の可動範囲を広げるリハビリを進めています。2月のテストまでに間に合うようにがんばります!」と力強く語ってくれた。

ブリヂストンのAX41シリーズが熱い!



ホンダ・CBR1100L4アフリカツインがモデルチェンジによって、ルックスはさほど変わらないものの中身は大きく変化をとげた。今回はそのタイヤに注目。標準装着されるのは2種類で、ブリヂストンのAX41Tとメッツラーのカルーストリートとなる。AX41Tがストリートよりでカルーストリートがオフロードの設定だけれど、購入時に選ぶことはできない。

さて、アドベンチャーモデルのタイヤに詳しい人なら、すでに「ん?」となっていることだろう。そう、AX41Tというタイヤは、ブリヂストンの公式ホームページには載っていないのだ。いわゆる車種専用タイヤというわけ。アフリカツインの開発者によると、AX41よりオフロード寄り、AX41よりロード寄りのパフォーマンスを求めた結果生まれたタイヤなのだ。

残念ながら、オフロードにおいてどんなパフォーマンスなのかはチェックできなかったけれど、舗装路でのフィーリングは、ワインディングを走った限りでは路面からの情報もわかりやすかったし、ロードノイズも気にならなかった。そして誰もが気になる購入できるのか? であるけれど、もちろん可能。ただし、サイズ展開されていることは期待しないほうがいいだろう。

公式ホームページには載っていないけれど...

スクランブラー向けモデルがあるの知ってた?

そしてもう一つ、AX41Sというスクランブラー向けタイヤが欧州ではラインナップに加わっているけれど、こちらも国内のブリヂストン公式ホームページには載っていない。なかなかワイルドなトレッドデザインはカッコいいし、林道を走るにはちょうどよさそう。そして、こちらもAX41T同様、国内で普通にタイヤショップなどで問い合わせれば購入できるとのこと。スクランブラー系の車両オーナーは要チェックだ!



AX41とAX41Sともまったく異なるトレッドデザイン。AX41Sは比べてグルーブが多く、オフロードでの食いつきはよさそうである